

助産外来

市立千歳市民病院 助産師の活動から



今月の特集は、安心・安全・快適な出産を支えるため、今年7月、市民病院に開設した「助産外来」の取り組みをご紹介します。

出産にかかわる背景とこれからの産科医療

千歳市は、「北海道で一番若いまち」です。出生率は10.7パーミル（人口1千人あたりの出生数）となっており、北海道の平均7パーミル台を大きく上回っています。

全国的な高齢・少子化の影響は受けていますが、人口の増加が続いている本市において、出産・子育て世代を支える医療・保健福祉のサービスへの期待は大きいと言えます。

厚生労働省は、少子化をみすえて、平成13年に21世紀の母子保健の国民運動計画「健やか親子21」を策定し、「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」を主要課題の一つとして推進しています。

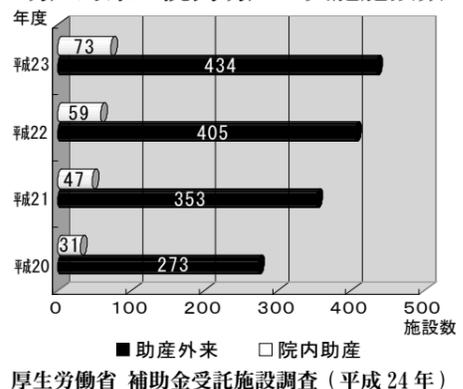
そのなかで注目されたのが、病院などの施設内で働く「助産師」を活用した産科チーム医療の充実です。

「助産師」が個別にかかわった出産は、安心感や満足度が高いため、妊娠生活のなかで、自己管理や安全な分娩のための準備教育、養育環境を整えるための支援など、専門性があらためてクローズアップされています。

近年、全国的な産科医師の不足と地域的なたよりなどで、分娩を扱う施

設が減少している状況にあります。病院内で産科医と助産師が連携を深め、協働することにより、質の高い医療を提供できるしくみ「院内助産システム」（助産外来・院内助産）が全国的に広まっています（グラフ1参照）。

《グラフ1》 助産外来・院内助産の実施施設数



院内助産システムとは

助産師は、正常で自然な経過をたどることができる出産を主体的に取り扱い、医師は、異常の対処や医療が必要などに専念するという、役割分担を明確にしているのが「院内助産システム」です。

助産師が「院内助産システム」で活動する部門は、つぎのとおり（図1参照）です。

【病棟部門】 医師の立ち会いがない分娩介助と産後のケアを行う「院内助産」（助産所と同じ機能）

【外来部門】 妊婦健診・母乳外来・産後健診などの「助産外来」

「助産外来—結yui（ゆい）」の誕生

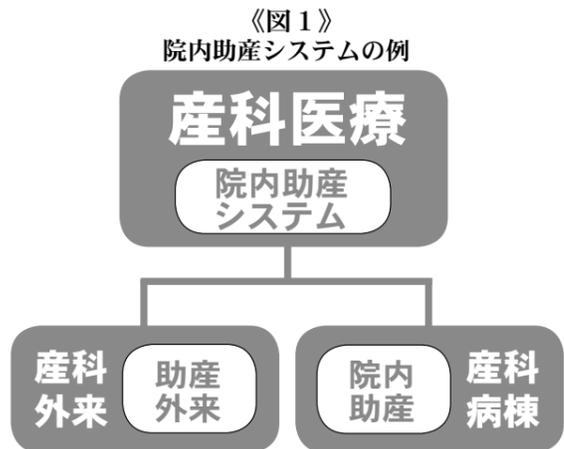
市民病院では、市の年間出生数の約900〜1,000件のうち、400件前後（約4割）の分娩があります。産科外来では、約500〜600人（ほかの病院で出産する方を含む）の妊婦健診を実施しています。

このような中、助産師の専門性を生かし、妊婦の方とゆっくり向き合って健診や相談などができる院内助産システムの新設などについて検討したところ、産科医師の同意や妊婦の方などからの後押しもあって、助産師が妊婦健診を行う、「助産外来—結yui（ゆい）」を今年の7月に開設しました。

助産師が主となってできる妊婦健診や分娩は、正常経過（低リスク）の妊婦の方が対象で、その人数割合は、約30%（推計）といわれています。

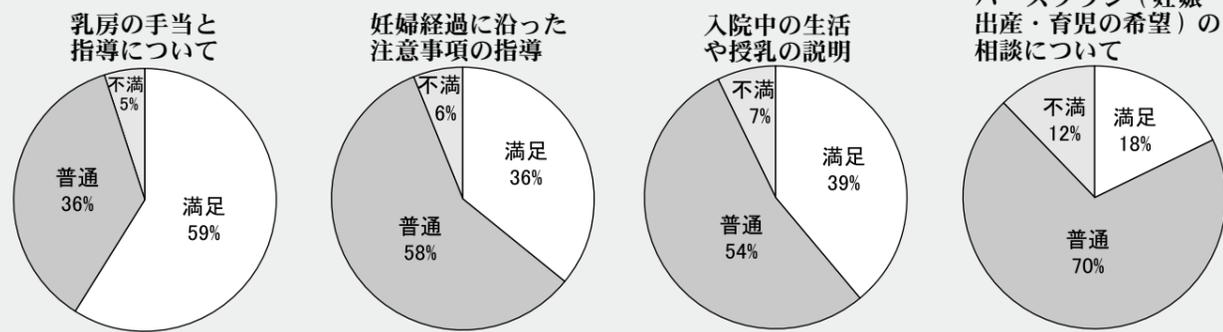
残りの、約70%（推計）の妊婦の方は、何らかのリスクを抱えており、適切な医師の診断や治療が必要になります。

医師と助産師は、妊婦の方のリスクや希望などを考慮して、業務基準や手続きなどの調整を十分に行い、それぞれが助産外来で連携できるように、協議をして診察の基準を決めています。



◎市民病院では、平成24年12月に妊婦健診を受診した74人の方を対象として、妊婦健診の満足度調査を実施しました。この結果、今まで行ってきた妊婦健診は、グラフ2、グラフ3のとおり、不満の少ないことが分かりました。

《グラフ2》 主な指導内容の満足度

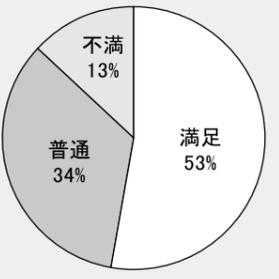


◎満足度調査の結果から、グラフ4のとおり、約6割の方が助産外来を希望しています。

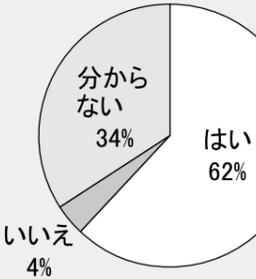
◎満足度調査の自由意見において、「助産外来に期待すること」のおもなものは、下記のとおりです。

- ①母乳に関すること（おっぱいトラブル、産後の相談）
- ②もっと相談に乗ってほしい（不安・悩み相談）
- ③エコーをゆっくり見て話を聞きたい
- ④医師に話しにくいことも、女性の助産師なら話しやすそう
- ⑤助産師とのコミュニケーションや待ち時間の短縮 など

《グラフ3》 妊婦健診の満足度



《グラフ4》 助産外来を受診したいですか？



（市民病院助産外来）

結-yui-

結-yui

- ☆市民病院では、ご本人からの希望があるとき、助産外来を実施しています。
- ☆医師と助産師が妊娠週数により交互に診察を行い、協力して妊婦健診を担当していきます。
- ☆助産外来は、完全予約制のため、ゆったりとした時間の中でパースプランを妊娠中から一緒に話し合い、妊婦の方やご家族が満足いく出産ができるようお手伝いをしています。
- ☆興味のある方は、ぜひ、お問い合わせください。

- ☆妊婦の方に寄り添い、安全で満足していただけるお産をめざしています。
- ☆私たち助産師は、「あなたらしいお産」に向けて歩んでいる妊婦の方を応援していきます。
- ☆対象は、当院で分娩予定の妊娠20週以降の妊婦の方で、医師の許可がある方です。



妊婦健診スケジュール

妊娠週数	妊婦健診の担当
初診～19週まで	医師
20～23週	助産師
24～25週	医師
26～27週	助産師
28～29週	医師
30～31週	助産師
32～33週	医師
34～35週	助産師
36週以降	医師・助産師

☆☆ 診療日時など ☆☆

- ☆☆月・火・木・金曜日
8時50分～11時50分、13時～16時
- ☆☆水曜日
8時50分～11時50分
- ☆☆完全予約制
- ☆☆診療時間は、1人30分～45分程度
- ☆☆妊婦健診費用は、変更ありません。
- ☆☆（妊婦一般健康診査受診票を使用できます）

☆☆☆ 内容 ☆☆☆

- ☆☆☆血圧・体重測定
- ☆☆☆検尿・浮腫の有無の確認
- ☆☆☆腹囲・子宮底長の測定
- ☆☆☆超音波検査・胎児心拍聴取
- ☆☆☆胎児心拍装置装着（34週以降）
- ☆☆☆パースプランの作成
- ☆☆☆保健指導・各種指導など



「妊婦健診」って、何ですか？

- ☆妊娠は“病気ではない”と言われますが、定期的に健診を受け、赤ちゃんが順調に育っているか、お母さんの体に異常がないかを診るために妊婦健診があります。
- ☆妊娠期間中、心身ともに健康に過ごし、安心して出産を迎え、スムーズに育児ができるように、日常生活や環境、栄養などのアドバイス、妊娠・出産・育児に対する不安や悩みの相談に応じています。
- ☆受診の回数は、下の図2のように全期間をとおして14回程度と決められています。
- ☆健診費用を心配する方もいますが、妊婦の健康管理の充実と経済的負担の軽減を図るため、公費により健診費用の14回分が助成されます。
- ☆妊娠とわかったら、すみやかに産婦人科で診断を受け、市の保健センターに妊娠届を出しましょう。母子健康手帳とともに、助成券（妊婦一般健康診査受診票）が交付されます。

「妊婦健診」は、どのようなことをするのですか？

- ☆尿検査、血圧、浮腫（むくみ）、体重測定が行われます。
- ☆また、超音波（エコー）検査では、赤ちゃんの発育状態や胎盤・臍帯（へその緒）の位置、羊水の量などを診ます。妊娠高血圧症候群（以前は妊娠中毒症）、妊娠糖尿病、流・早産などの病気や赤ちゃんの発育異常を早期に発見します。
- ☆必要な時期には、血液やおりもの検査を行い、貧血や感染症など妊娠や出産中にお母さんや赤ちゃんに影響ないのかを診ます。
- ☆健康に自信がある方でも、妊娠中に重い病気になることがありますので、安全で安心な出産のため、早期に適切な治療や保健指導を受けましょう。



◇◇ 助産師とは？ ◇◇
厚生労働大臣の免許を受けて、助産または妊婦・じよく婦もしくは新生児の保健指導を行うことを業とする女子（保健師助産師看護師法）とされ、日本では、助産行為を行うことができるのは、医師及び助産師であり、助産師が単独で行えるのは、正常経過の妊娠分娩に關しての助産行為です。
※注 じよく婦 出産後の回復過程にある女性のこと。
※注 助産行為 分娩介助や臍帯（へその緒）の切断を含み、妊娠・出産・産褥・新生児各期の母児のケアや助言を行うこと。

《図2》厚生労働省で示している標準的な“妊婦健診”の例

期間	妊娠初期～23週（6か月）	妊娠24週～35週（9か月）	妊娠36週～出産まで
受診の間隔	4週間に1回	2週間に1回	1週間に1回
毎回共通する基本的な項目	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態の把握…妊娠週数に応じた問診・診察など 検査計測…妊婦の健康状態と赤ちゃんの発育状態を確認するための検査 血圧、浮腫、尿検査（糖・蛋白）、体重、超音波検査、子宮底長、腹囲など 保健指導…妊娠期間を健やかに過ごすための食事や生活に関するアドバイス 妊婦の精神的な健康に留意し、妊娠・出産・育児に対する不安や悩みの相談と、家庭的・経済的問題などで個別の支援を必要とする方には、適切な保健や福祉のサービスが提供されるよう、市の保健師などと協力して対応 		
必要に応じて行う医学的検査	<ul style="list-style-type: none"> 血液検査 血液型、血算、血糖、B型・C型肝炎抗体・HIV抗体・梅毒・風疹抗体・HTLV など 子宮頸がん検診 性器クラミジア 	<ul style="list-style-type: none"> 血液検査 血算・血糖 B群溶血性連鎖球菌 	<ul style="list-style-type: none"> 血液検査 血算



- ・「中央の花」は、妊婦の方、新芽は赤ちゃんを表し、へその緒でつながっています。
- ・「月」（グレー色部分）は、医師や助産師・家族です。
- ・「月のリボン」は、「結ぶ」ということを意味します。赤ちゃんとお母さん、まわりの人を結ぶ助産外来でありたいという願いを込めて「結-yui-」（ゆい）と名付けました。



超音波（エコー）検査中の津村診療部長

「市民病院 助産外来開設に寄せて」

津村 宣彦
（産婦人科担当）

市民病院には、平成17年に赴任しました。千歳の第一印象は、陸路・空路ともに利便性がよく、自衛隊や工業・農業などの各産業も発展的要素を備えていて、まさに若者が集まる街という感じでした。働く世代が多いということもあり、他の都市と比べると、産科や小児科の患者さんの割合が高い地域です。自治体病院の産科として、正常妊娠の管理はもちろん、ハイリスクな妊婦

さんも近隣クリニックから多く紹介され、地域の基幹病院として安全の質を保ちながら、より良い医療の提供に努めています。

このたび、助産師とともに助産外来の立ち上げにかかわり、産科チームとして結束もさらに深まりました。助産外来の妊婦健診は、1人の診療に30分以上の時間をかけており、助産師と話ができることで、医師の外来では、相談しにくかったことが解決でき、また、その場で個別性のある保健指導を細やかに受けられることが最大のメリットです。

正常経過の妊婦さんはもちろんですが、リスクをかかえている方も、不安なことや相談事も多いと思われる方も、一度は助産外来に足を運んでいただき、しっかりと自分の身体の管理に向き合ってもらいたいと思います。

万が一、異常が予測されたときは、助産師が速やかに医師へ報告して対処しておりますので、どうぞ安心して助産外来をご利用ください。

一人でも多くの妊婦さんやご家族が、安全で安心な産科医療が受けられ、お子さんの誕生の喜びを医療スタッフとともに分かちあえる「心あたたまる医療」につながることを願っております。

お問い合わせは

市民病院 産婦人科外来
☎(24)3000（内線250）